

国立青少年教育施設における傷病の概況

(平成 30 年度調査)

令和 2 年 3 月

目 次

I. 調査の概要

- 1. 調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 2. 調査対象とした傷病の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 3. 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 4. 調査対象とした施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 5. 調査実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 6. 調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 7. 本書を読むに当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1

II. 調査結果の概要

- 1. 調査結果のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2
 - (1) 負傷の概況
 - (2) 疾病の概況
- 2. 傷病の特徴と今後の安全対策・・・・・・・・・・・・・・ p 3
 - (1) 負傷の特徴と安全対策
 - (2) 疾病の特徴と安全対策

III. 調査結果

- 1. 施設で発生した傷病の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4
 - (1) 施設で発生した傷病の件数
 - (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合
 - (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合
 - (4) 利用期間別にみた発生件数・割合
 - (5) 時間別にみた発生件数・割合
 - (6) 活動内容別にみた発生件数・割合
 - (7) 場所別にみた発生件数・割合
 - (8) 天候別にみた発生件数・割合
 - (9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合
- 2. 負傷の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 10
 - (1) 負傷の状態
 - (2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因
 - (3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数
 - (3) 負傷した時の状況
 - ① 負傷の多かった活動の事例（上位 5 つ）
 - ② その他の活動で重傷だった事例

3. 疾病の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 26
- (1) 疾病の状態
 - (2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応
 - (3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・ p 35
- (1) 負傷の特徴
 - (2) 今後の安全対策
2. 疾病の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・ p 35
- (1) 疾病の特徴
 - (2) 今後の安全対策

参考資料

傷病記録

普及啓発用チラシ

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

3. 調査期間

平成 30 年 4 月 1 日（日）～平成 31 年 3 月 31 日（日）

4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設 27 施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

5. 調査実施体制

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課（調査・普及）、青少年教育研究センター（集計・分析）

6. 調査内容

- （1）傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- （2）傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- （3）けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- （4）傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状を一つ選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、その和が 100.0%と一致しない場合がある。

Ⅱ．調査結果の概要

1．調査結果のポイント

(1) 施設で発生した傷病の概況

- 平成 30 年度の国立青少年教育施設（27 施設）の利用者数は約 298 万人で、そのうち、傷病の発生件数は 3469 件（負傷 1141 件、疾病 2328 件）であった。[p4・表 1-1]
- 傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷 405 件、疾病 961 件）が最も多く、傷病の発生件数の 4 割弱を占めていた。[p4・表 1-2]
- 月ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷は「8 月」（194 件）、疾病は「7 月」（426 件）が多く、施設で発生した傷病の 8 割弱は 4～9 月（春・夏）に起きていた。[p5・表 1-3]
- 時間ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷の発生は午前や午後の活動の後半の時間帯で多くなる傾向がみられ、疾病の発生は朝や午前中の時間帯に多くなる傾向がみられた。[p6・表 1-5]

(2) 負傷の概況

- 負傷で多かった症状は「打撲」（202 件）で、次いで「虫さされ」（182 件）、「ねんざ」（171 件）であった [p10・表 2-1-1]。症状ごとに負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表 1 のとおりであった [p10・表 2-1-2、p11・表 2-1-5]。

表 1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位 3 つ）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (202 件)	1. 「頭」(53 件) 2. 「顔」(23 件) 3. 「手・指」(22 件)	1. 「不注意（本人）」(99 件) 2. 「注意不足（指導・引率者）」(50 件) 3. 「失敗（本人）」(42 件)
2. 「虫さされ」 (182 件)	1. 「下腿」(34 件) 2. 「足首」(25 件) 3. 「手・指」(23 件)	1. 「虫・動物（環境）」(143 件) 2. 「不注意（本人）」(33 件) 3. 「不適切な服装（装備）」(31 件)
3. 「ねんざ」 (171 件)	1. 「足首」(121 件) 2. 「手首」(14 件) 3. 「足・指」(12 件)	1. 「不注意（本人）」(97 件) 2. 「不慣れ（本人）」(46 件) 3. 「失敗（本人）」(36 件)

- 負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」(230 件) で、次いで「野外炊事」(122 件)、「自由時間」(107 件) であった。[p7・表 1-6]
- 活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「打撲」(53 件)、「ねんざ」(40 件)、「虫さされ」(25 件)、野外炊事では「やけど」(52 件)、「きり傷」(24 件)、「虫さされ」(18 件)、自由時間では「打撲」(25 件)「きり傷」(17 件)、「すり傷」(11 件) による負傷が多くなっている。[p17・表 2-3-4]

(3) 疾病の概況

- 疾病で多かった症状は「発熱」(674 件) で、次いで「頭痛」(413 件)、「吐き気」(213 件) であった。[p26・表 3-1-1]
- 症状毎に発症した要因をみると、発熱では「疲労（本人）」(368 件)、「気温（環境）」(119 件)、「不安・心配・緊張（本人）」(67 件)、頭痛では「疲労（本人）」(229 件)、「気温（環境）」(118 件)、「寝不足（本人）」(86 件)、吐き気では「疲労（本人）」(126 件)、「寝不足（本人）」(47 件)、「気温（環境）」(44 件) が多くなっていた。[p27・表 3-2-1]

2. 傷病の特徴と今後の安全対策

(1) 負傷の特徴と安全対策

<負傷の特徴>

- 負傷した時の状況をみると（p20～p25）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ドッジボールでバランスを崩して転倒し、床で頭部を打撲」「長縄で着地に失敗して足首をねんざ」、野外炊事では「熱した鍋を持って手をやけど」「刃物を使っていて指を切った」、自由時間では「友達とふざけていて壁に頭をぶつけて出血」「滑り台で遊んでいる時に転んで肩を打撲」といった状況で負傷している。
- 負傷の9割強は軽微又は軽傷な負傷で済んでいるが、中には「綱引きでバランスを崩し、右膝の靱帯損傷・断裂」（スポーツ活動）、「ターザンロープで怖くなって足で止めようとしたら下腿を骨折」（自由時間）、「ブレーキをかけた際に前方に転倒し、手首を骨折」（サイクリング・マウンテンバイク）、「沢で滑って転び、手首を骨折」（沢登り）など1ヶ月以上の治療を要する重傷なケースも起きている。

<今後の安全対策>

- 指導者（利用団体の引率者、施設職員等）は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかなど）を徹底し、利用者の安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険（リスク）の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。
- 施設は、事前打ち合わせの際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。

(2) 疾病の特徴と安全対策

<疾病の特徴>

- 発症した症状をみると、発熱、頭痛、吐き気、腹痛、嘔吐が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 発症した時期をみると、半数近くが急に体調を崩しているが、3割弱は朝から、1割強は前日からと答えており、疾病を申し出た者の4割弱は事前に体調不良を感じている。
- 発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約3割は帰宅している。

<今後の安全対策>

- 指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにするとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

Ⅲ. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の概況

(1) 施設で発生した傷病の件数

平成 30 年度の国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）の利用者数は約 298 万人（国立オリンピック記念青少年センターを除く）であった。

施設で発生した傷病の件数（表 1-1）は 3469 件（男 1708 件、女 1761 件）で、そのうち、研修支援※¹が 3250 件（男性 1599 件、女性 1651 件）、教育事業※²が 143 件（男性 71 件、女性 72 件）であった。傷病の件数の内訳をみると、負傷が 1141 件（男性 644 件、女性 497 件）、疾病が 2328 件（男性 1064 件、女性 1264 件）となっている。

表 1-1. 負傷・疾病別・事業種別傷病の発生件数 (件)

事業別	負 傷			疾 病			計		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
研修支援	1057	591	466	2193	1008	1185	3250	1599	1651
教育事業	60	38	22	83	33	50	143	71	72
不 明	24	15	9	52	23	29	76	38	38
計	1141	644	497	2328	1064	1264	3469	1708	1761

※ 1 研修支援：全国 28 か所にある教育施設において、学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けた、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等

※ 2 教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業

(2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合

傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-2）、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷 405 件、疾病 961 件）が最も多く、傷病の発生件数の 4 割弱を占めている。

表 1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負 傷		疾 病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	33	2.9	65	2.8	98	2.8
小学生	405	35.5	961	41.3	1366	39.4
中学生	277	24.3	527	22.6	804	23.2
高校生	170	14.9	371	15.9	541	15.6
大学生等	151	13.2	204	8.8	355	10.2
社会人	90	7.9	176	7.6	266	7.7
その他	5	0.4	6	0.3	11	0.3
不明	10	0.9	18	0.8	28	0.8
計	1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

(3) 月別にみた傷病の発生件数・割合

月ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-3）、負傷では「8 月」（194 件）が最も多く、次いで「5 月」（166 件）、「4 月」（146 件）となっており、施設で発生した負傷の 8 割弱は 4～9 月（春・夏）に起きている状況であった。一方、疾病は「7 月」（426 件）が最も多く、次いで「8 月」（386 件）、「4 月」（329 件）となっており、疾病についても 8 割弱が 4～9 月（春・夏）に起きている状況であった。

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
春・夏	4月	146	12.8	329	14.1	475	13.7
	5月	166	14.5	261	11.2	427	12.3
	6月	143	12.5	244	10.5	387	11.2
	7月	143	12.5	426	18.3	569	16.4
	8月	194	17.0	386	16.6	580	16.7
	9月	117	10.3	149	6.4	266	7.7
秋・冬	10月	48	4.2	73	3.1	121	3.5
	11月	41	3.6	65	2.8	106	3.1
	12月	29	2.5	63	2.7	92	2.7
	1月	35	3.1	197	8.5	232	6.7
	2月	38	3.3	55	2.4	93	2.7
	3月	40	3.5	80	3.4	120	3.5
不明		1	0.1	0	0.0	1	0.0
計		1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

(4) 利用期間別にみた傷病の発生件数・割合

利用期間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-4-1）、負傷、疾病ともに「2 泊 3 日」（負傷 462 件、疾病 960 件）が最も多く、次いで「1 泊 2 日」（負傷 407 件、疾病 852 件）、「3 泊 4 日」（負傷 108 件、疾病 255 件）となっている。

泊数別に傷病の発生日をみたところ（表 1-4-2、表 1-4-3）、負傷・疾病ともに、1 泊 2 日では「1 日目」（負傷 261 件、疾病 480 件）、2 泊 3 日では「2 日目」（負傷 276 件、疾病 466 件）、3 泊 4 日では「3 日目」（負傷 46 件、疾病 100 件）に傷病の発生が多くなっている。

表 1-4-1. 利用期間別傷病発生件数・割合

利用期間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
日帰り		28	2.5	42	1.8	70	2.0
宿泊	1泊2日	407	35.7	852	36.6	1259	36.3
	2泊3日	462	40.5	960	41.2	1422	41.0
	3泊4日	108	9.5	255	11.0	363	10.5
	4泊5日	81	7.1	86	3.7	167	4.8
	5泊6日	16	1.4	66	2.8	82	2.4
	6泊7日	14	1.2	26	1.1	40	1.2
	7泊8日以上	25	2.2	41	1.8	66	1.9
計		1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

表 1-4-2. 泊数別・発生日別負傷発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	261	64.1	121	26.2	17	15.7	5	6.2
2日目	146	35.9	276	59.7	35	32.4	21	25.9
3日目			65	14.1	46	42.6	31	38.3
4日目					10	9.3	19	23.5
5日目							5	6.2
計	407	100.0	462	100.0	108	100.0	81	100.0

表 1-4-3. 泊数別・発生日別疾病発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	480	56.3	243	25.3	45	17.6	10	11.6
2日目	372	43.7	466	48.5	92	36.1	22	25.6
3日目			251	26.1	100	39.2	22	25.6
4日目					18	7.1	22	25.6
5日目							10	11.6
計	852	100.0	960	100.0	255	100.0	86	100.0

(5) 時間別にみた傷病の発生件数・割合

時間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-5）、負傷では「11 時」（149 件）が最も多く、次いで「15 時」（140 件）、「16 時」（113 件）となっており、午前・午後ともに活動の後半の時間帯で負傷の発生が多くなる傾向がみられた。一方、疾病では、「8 時」（208 件）が最も多く、次いで「10 時」（190 件）、「7 時」（176 件）となっており、疾病の申し出は朝や午前中の時間帯に多くなる傾向がみられた。

表 1-5. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	22	1.9	81	3.5	103	3.0
	7時	18	1.6	176	7.6	194	5.6
	8時	28	2.5	208	8.9	236	6.8
活動（午前）	9時	35	3.1	172	7.4	207	6.0
	10時	106	9.3	190	8.2	296	8.5
	11時	149	13.1	166	7.1	315	9.1
昼食	12時	81	7.1	156	6.7	237	6.8
活動（午後）	13時	74	6.5	172	7.4	246	7.1
	14時	94	8.2	125	5.4	219	6.3
	15時	140	12.3	135	5.8	275	7.9
	16時	113	9.9	120	5.2	233	6.7
夕食・入浴等	17時	63	5.5	141	6.1	204	5.9
	18時	35	3.1	116	5.0	151	4.4
活動（夜）	19時	59	5.2	108	4.6	167	4.8
	20時	61	5.3	83	3.6	144	4.2
	21時	38	3.3	67	2.9	105	3.0
就寝	22～5時	25	2.2	111	4.8	136	3.9
不明		0	0.0	1	0.0	1	0.0
計		1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

※上記（左）の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

（６）活動内容別にみた傷病の発生件数・割合

活動内容ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-6）、負傷では「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（230 件）が最も多く、次いで「野外炊事」（122 件）、「自由時間」（107 件）となっている。一方、疾病は「研修・学習活動」（499 件）が最も多く、次いで「就寝時間（起床時間も含む）」（290 件）、「自由時間」（276 件）となっている。

表 1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	91	8.0	74	3.2	165	4.8
	オリエンテーリング・ウォークラリー	76	6.7	124	5.3	200	5.8
	クロスカントリー	2	0.2	8	0.3	10	0.3
	サイクリング・マウンテンバイク	22	1.9	2	0.1	24	0.7
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	30	2.6	38	1.6	68	2.0
	クライミング・ボルダリング	6	0.5	2	0.1	8	0.2
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	230	20.2	202	8.7	432	12.5
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	10	0.9	40	1.7	50	1.4
	海水浴・磯遊び・釣り	14	1.2	8	0.3	22	0.6
	沢登り・川遊び	28	2.5	7	0.3	35	1.0
雪上活動	スキー・スノーボード	26	2.3	37	1.6	63	1.8
	クロスカントリースキー	1	0.1	1	0.0	2	0.1
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	16	1.4	9	0.4	25	0.7
野外生活	野外炊事	122	10.7	112	4.8	234	6.7
	キャンプ（テント設営等）	3	0.3	6	0.3	9	0.3
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	26	2.3	40	1.7	66	1.9
	創作活動（クラフト等）	24	2.1	44	1.9	68	2.0
	自然観察	9	0.8	16	0.7	25	0.7
研修	研修・学習活動	83	7.3	499	21.4	582	16.8
	奉仕活動	2	0.2	4	0.2	6	0.2
生活	自由時間	107	9.4	276	11.9	383	11.0
	つどい（朝・夕）	21	1.8	67	2.9	88	2.5
	清掃	6	0.5	30	1.3	36	1.0
	食事	17	1.5	174	7.5	191	5.5
	入浴	20	1.8	13	0.6	33	1.0
	就寝時間（起床時も含む）	38	3.3	290	12.5	328	9.5
	移動中	59	5.2	67	2.9	126	3.6
その他	入所前	4	0.4	34	1.5	38	1.1
	その他	45	3.9	92	4.0	137	3.9
不明		3	0.3	12	0.5	15	0.4
計		1141	100.0	499	100.0	3469	100.0

(7) 場所別にみた傷病の発生件数・割合

場所ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-7）、負傷では「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（217 件）が最も多く、次いで「体育館・プレイホール・講堂」（183 件）、「グラウンド・広場・コート等」（181 件）となっている。一方、疾病では、「宿泊室」（588 件）が最も多く、次いで「研修室・オリエンテーション室」（367 件）、「体育館・プレイホール・講堂」（337 件）となっている。

表 1-7. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活エリア	宿泊室	106	9.3	588	25.3	694	20.0
	通路・階段	65	5.7	39	1.7	104	3.0
	食堂	14	1.2	160	6.9	174	5.0
	浴室	17	1.5	11	0.5	28	0.8
活動エリア	研修室・オリエンテーション室	71	6.2	367	15.8	438	12.6
	体育館・プレイホール・講堂	183	16.0	337	14.5	520	15.0
	武道場	13	1.1	29	1.2	42	1.2
	クライミングウォール	3	0.3	2	0.1	5	0.1
	工作室・調理室等	8	0.7	10	0.4	18	0.5
	野外炊飯場	119	10.4	100	4.3	219	6.3
	テントサイト	9	0.8	17	0.7	26	0.7
	グラウンド・広場・コート等	181	15.9	216	9.3	397	11.4
	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	217	19.0	175	7.5	392	11.3
	ロープスコース※	8	0.7	5	0.2	13	0.4
その他	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	53	4.6	141	6.1	194	5.6
	その他	66	5.8	79	3.4	145	4.2
不明		0	0.0	11	0.5	11	0.3
計		1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

(8) 天候別にみた傷病の発生件数・割合

天候ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-8）、負傷、疾病ともに「晴」（負傷 695 件、疾病 1488 件）が最も多く、次いで「曇」（負傷 286 件、疾病 451 件）、「雨」（負傷 137 件、疾病 306 件）となっている。

表 1-8. 天候別傷病発生件数・割合

天候	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	695	60.9	1488	63.9	2183	62.9
曇	286	25.1	451	19.4	737	21.2
雨	137	12.0	306	13.1	443	12.8
雪	23	2.0	81	3.5	104	3.0
不明	0	0.0	2	0.1	2	0.1
計	1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

(9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合

病院受診の有無別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-1）、負傷では「無」が 759 件、「日帰り」が 355 件、「入院」が 9 件となっており、病院を受診（日帰り、入院）した割合は 3 割強となっている。一方、疾病は「無」が 1846 件、「日帰り」が 443 件、「入院」が 11 件となっており、病院の受診（日帰り、入院）は 2 割弱となっている。

次に、傷病の処置・静養後の対応別に傷病の発生件数をみたところ（表 1-9-2）、負傷では「活動継続」が 1011 件、「帰宅」が 112 件と 9 割弱が活動を継続しているのに対し、疾病では「活動継続」が 1596 件、「帰宅」が 695 件と 3 割弱が帰宅している状況であった。

表 1-9-1. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	759	66.5	1846	79.3	2605	75.1
日帰り	355	31.1	443	19.0	798	23.0
入院	9	0.8	11	0.5	20	0.6
不明	18	1.6	28	1.2	46	1.3
計	1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

表 1-9-2. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	1011	88.6	1596	68.6	2607	75.2
帰宅	112	9.8	695	29.9	807	23.3
不明	18	1.6	37	1.6	55	1.6
計	1141	100.0	2328	100.0	3469	100.0

2. 負傷の概況

(1) 負傷の状態

負傷の症状をみると（表 2-1-1）、「打撲」（202 件）が最も多く、次いで「虫さされ」（182 件）、「ねんざ」（171 件）となっている。「虫さされ」の種類をみると（表 2-1-3）、「アブ・ブヨ」（69 件）が最も多く 4 割弱を占め、次いで「ハチ」（29 件）、「ダニ」（17 件）となっている。

負傷した部位をみると（表 2-1-2）、「手・指」（229 件）が最も多く、次いで「足首」（177 件）、「足・指」（97 件）となっている。各部位の区分でみると、「下肢部」（481 件）が 4 割強を占めており、次いで「上肢部」（368 件）が 3 割強、「頭部」（235 件）が約 2 割となっている。

表 2-1-1. 症状別負傷発生件数・割合

症状	件	%
きり傷	136	11.9
さし傷	24	2.1
すり傷	83	7.3
やけど	82	7.2
日焼け	3	0.3
凍傷	0	0.0
打撲	202	17.7
突き指	36	3.2
ねんざ	171	15.0
靱帯損傷・断裂	8	0.7
脱臼	10	0.9
骨折	53	4.6
鼻血	33	2.9
歯の破折	5	0.4
眼のけが	14	1.2
虫さされ	182	16.0
かぶれ	11	1.0
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	5	0.4
その他	83	7.3
計	1141	100.0

表 2-1-2. 部位別負傷発生件数・割合

部位	件	%	%
頭部	90	7.9	20.6
顔	101	8.9	
眼	30	2.6	
首	14	1.2	
上肢部	20	1.8	32.4
上腕	24	2.1	
肘	19	1.7	
前腕	33	2.9	
手首	43	3.8	
手・指	229	20.1	
体幹部	4	0.4	2.5
胸	8	0.7	
腹	5	0.4	
背中	11	1.0	
腰部	11	1.0	42.2
尻	3	0.3	
大腿	34	3.0	
膝	91	8.0	
下腿	79	6.9	
足首	177	15.5	
足・指	97	8.5	
全身	1	0.1	0.1
不明	28	2.5	2.5
計	1141	100.0	

表 2-1-3. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	69	37.9
ハチ	29	15.9
ダニ	17	9.3
毛虫	2	1.1
ムカデ	7	3.8
クラゲ	4	2.2
その他	13	7.1
不明	41	22.5
計	182	100.0

表 2-1-4. 程度別負傷発生件数・割合

程度	件	%
軽微(その場で手当てでできる軽いけが)	777	68.1
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	286	25.1
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	35	3.1
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	0	0.0
不明	43	3.8
計	1141	100.0

負傷の程度をみると（表 2-1-4）、「軽微（その場で手当てできる軽いけが）」（777 件）が最も多く、発生した負傷の 7 割弱は軽微な負傷となっている。

負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-1-5）、「不注意（本人）」（483 件）が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（224 件）、「注意不足（指導・引率者）」（201 件）となっている。各要因の区分で見ると、本人に係る要因（1111 件）が約 58%となっており、次いで環境や指導・引率者に係る要因（環境 305 件、指導・引率者 299 件）がともに約 16%、装備に係る要因（94 件）が約 5%となっていた。

表 2-1-5. 要因別負傷発生件数・割合 (複数回答)

要因		件	%	%
本人	失敗	186	16.3	57.6
	不注意	483	42.3	
	不慣れ	224	19.6	
	不適切な行動	52	4.6	
	寝不足	4	0.4	
	疲労	65	5.7	
	不安・心配・緊張	19	1.7	
	体力不足	25	2.2	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	33	2.9	
	既往症	16	1.4	
	アレルギー	4	0.4	
指導・引率者	指導不足	48	4.2	15.5
	注意不足	201	17.6	
	経験不足	21	1.8	
	人数不足	10	0.9	
	連携不足	5	0.4	
	準備不足	14	1.2	
装備	不適切な服装	59	5.2	4.9
	装備不備	20	1.8	
	装備不良(破損・劣化)	6	0.5	
	施設・設備の欠陥・不良	9	0.8	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	8	0.7	15.8
	気温	29	2.5	
	日差し	18	1.6	
	高度(標高)	2	0.2	
	水深	0	0	
	雪	2	0.2	
	落石・落木	3	0.3	
	不安定さ・滑りやすさ	86	7.5	
	虫・動物	145	12.7	
	植物	12	1.1	
	病原体(ウィルス等)	0	0	
その他		67	5.9	3.5
不明		53	4.6	2.7
回答者数		1141		↑

※上記の数値は回答数(N=1929)を基に割合を算出

（２）症状別にみた負傷の部位、程度、要因

症状ごとに負傷した部位をみると（表 2-2-1）、打撲では「頭」（53 件）や「顔」（23 件）など頭部の負傷が多く、ねんざでは「足首」（121 件）や「手首」（14 件）の負傷、虫さされでは「下腿」（34 件）や「足首」（25 件）といった下肢部の負傷が多くなっている。

次に、症状ごとに負傷の程度をみると（表 2-2-2）、ほとんど症状では「軽微」が多くなっているが、脱臼では 5 割、きり傷では 4 割強が「軽傷」、骨折では 4 割半が「重傷」となっている。

表 2-2-1. 症状別・部位別負傷発生件数

(件)

部位	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
頭部	19	0	1	0	0	0	53	3	0	0	1	1	1	0	0	8	0	0	0	3	90
顔	20	1	9	3	0	0	23	0	0	0	0	1	27	3	0	8	1	0	1	4	101
眼	3	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	2	13	1	2	0	0	4	30
首	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	4	14
上部	0	0	0	1	1	0	8	0	1	0	3	4	0	0	0	2	0	0	0	0	20
腕	2	0	2	3	0	0	5	0	0	0	0	4	0	0	0	8	0	0	0	0	24
肘	3	2	2	0	0	0	4	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	19
前腕	0	0	5	8	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	13	1	0	0	1	33
手首	1	0	0	4	0	0	5	1	14	0	0	13	0	0	0	4	0	0	0	1	43
手・指	53	12	13	49	0	0	22	23	4	2	3	6	0	0	0	23	0	0	1	18	229
体幹部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	4
腹	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	8
背中	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	5
腰	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3	11
下部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
尻	2	0	0	3	0	0	9	0	3	2	0	1	0	0	0	9	1	0	0	4	34
大腿	9	1	31	0	0	0	21	2	10	2	0	3	0	0	0	6	0	0	0	6	91
膝	7	2	9	3	0	0	9	1	1	1	0	3	0	0	1	34	2	0	0	6	79
下腿	2	1	2	5	0	0	4	2	121	1	1	7	0	0	0	25	0	0	0	6	177
足首	12	4	6	2	0	0	19	3	12	0	2	3	0	0	0	15	1	0	0	18	97
足・指																					
全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
不明	3	1	0	0	0	0	3	0	2	0	0	1	4	0	0	12	0	0	2	0	28
計	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

表 2-2-2. 症状別・程度別負傷発生件数

(件)

程度	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
軽微	70	16	75	69	3	0	155	30	119	5	2	1	31	1	5	129	10	0	2	54	777
軽傷	58	7	8	11	0	0	36	6	45	2	5	24	1	3	8	47	1	0	1	23	286
重傷	2	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	24	0	1	0	1	0	0	0	1	35
致命傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	6	1	0	2	0	0	9	0	5	0	2	4	1	0	1	5	0	0	2	5	43
計	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

症状ごとに負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-2-3）、打撲やねんざ、きり傷の要因としては、「不注意（本人）」（打撲 99 件、ねんざ 97 件、きり傷 63 件）、「不慣れ（本人）」（打撲 40 件、ねんざ 46 件、きり傷 41 件）、「失敗（本人）」（打撲 42 件、ねんざ 36 件、きり傷 31 件）、「注意不足（指導・引率者）」（打撲 50 件、ねんざ 29 件、きり傷 33 件）が多くなっており、打撲とねんざについては「不安定さ・滑りやすさ（環境）」（打撲 24 件、ねんざ 34 件）も多くなっている。虫さされの要因をみると、「虫・動物（環境）」（143 件）が最も多く 8 割弱を占めているが、「不注意（本人）」（33 件）や「不適切な服装（装備）」（31 件）も多くなっている。

表 2-2-3. 症状別・要因別負傷発生件数

（複数回答：件）

要因		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他
本人	失敗	31	4	13	16	0	0	42	16	36	4	3	12	1	2	1	0	0	0	1	4
	不注意	63	13	47	57	0	0	99	9	97	2	3	24	2	2	6	33	0	0	3	23
	不慣れ	41	4	15	25	1	0	40	6	46	1	0	8	3	0	3	11	1	0	0	19
	不適切な行動	13	0	6	3	0	0	7	2	5	0	1	5	0	0	0	1	0	0	1	8
	寝不足	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	疲労	3	0	3	1	0	0	15	0	17	2	0	1	7	0	1	1	1	0	0	13
	不安・心配・緊張	3	0	1	1	0	0	2	0	5	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	3
	体力不足	1	0	1	0	0	0	7	3	7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	人間関係	5	0	3	0	0	0	13	3	2	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	3
	既往症	1	0	1	0	0	0	1	1	1	0	2	1	1	0	0	1	1	0	0	5
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1
指導・引率者	指導不足	8	2	3	11	0	0	8	4	3	1	0	2	0	0	2	2	0	0	0	2
	注意不足	33	3	22	18	0	0	50	4	29	0	2	11	4	0	3	10	0	0	0	12
	経験不足	3	0	2	3	0	0	5	1	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	2
	人数不足	1	0	0	1	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連携不足	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	2	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
装備	不適切な服装	5	0	4	6	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	31	3	0	0	6
	装備不備	4	2	1	4	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	1
	装備不良	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の欠陥・不良	0	2	1	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
環境	荒天	1	1	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	気温	0	0	2	0	0	0	7	0	0	0	0	0	13	0	0	1	4	0	0	2
	日差し	0	1	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4	0	0	2	4	0	0	1
	高度（標高）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	水深	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雪	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	8	3	6	0	0	0	24	1	34	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1
	虫・動物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143	0	0	0	1
	植物	1	2	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	病原体（ウイルス等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		9	0	5	5	0	0	13	1	4	0	0	1	8	0	3	5	0	0	0	13
不明		4	1	3	0	0	0	13	1	4	0	2	5	5	0	1	8	1	0	2	3
回答者数(N=1141)		136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83

(3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数

負傷者の年齢期ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-1）、小学生は「打撲」（73 件）、「きり傷」（55 件）、「虫さされ」（55 件）、中学生は「打撲」（57 件）、「ねんざ」（52 件）、「きり傷」（33 件）、高校生は「虫さされ」（43 件）、「ねんざ」（33 件）、「打撲」（25 件）による負傷が多くなっている。

男女で負傷の症状を比較すると、男性は「骨折」（36 件）、「打撲」（130 件）、「やけど」（51 件）、「きり傷」（83 件）、「すり傷」（51 件）、「突き指」（22 件）による負傷が女性に比べて多くなっている。そこで、年齢期ごとに男女の負傷の発生件数を比較したところ、幼児を除き、いずれの年齢期でも男性のほうが多くなっており、その差は小学生で顕著になっている。

表 2-3-1. 年齢期・性別・症状別負傷発生件数

(件)

年齢期	性別	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
幼児	全体	7	1	5	2	0	0	3	0	1	0	0	2	2	0	0	8	1	0	0	1	33
	男性	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6	0	0	0	0	14
	女性	4	1	3	1	0	0	3	0	1	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	1	19
小学生	全体	55	7	34	50	0	0	73	7	50	1	0	23	11	1	8	55	6	0	2	22	405
	男性	28	5	21	29	0	0	50	5	28	0	0	16	6	0	3	32	1	0	2	15	241
	女性	27	2	13	21	0	0	23	2	22	1	0	7	5	1	5	23	5	0	0	7	164
中学生	全体	33	6	16	16	2	0	57	10	52	2	0	13	14	1	4	31	1	0	1	18	277
	男性	24	3	9	12	0	0	39	8	16	1	0	11	10	0	2	10	0	0	1	6	152
	女性	9	3	7	4	2	0	18	2	36	1	0	2	4	1	2	21	1	0	0	12	125
高校生	全体	16	3	9	5	1	0	25	5	33	1	4	5	2	1	0	43	3	0	1	13	170
	男性	12	1	8	4	0	0	13	3	18	0	2	4	2	0	0	19	0	0	0	6	92
	女性	4	2	1	1	1	0	12	2	15	1	2	1	0	1	0	24	3	0	1	7	78
大学生等	全体	17	5	13	3	0	0	21	10	22	1	4	4	2	1	2	29	0	0	0	17	151
	男性	12	3	8	2	0	0	15	5	14	1	1	2	0	1	2	15	0	0	0	6	87
	女性	5	2	5	1	0	0	6	5	8	0	3	2	2	0	0	14	0	0	0	11	64
社会人	全体	7	2	3	3	0	0	20	3	13	2	2	5	2	1	0	15	0	0	1	11	90
	男性	3	2	2	2	0	0	12	1	9	1	2	2	1	1	0	8	0	0	1	6	53
	女性	4	0	1	1	0	0	8	2	4	1	0	3	1	0	0	7	0	0	0	5	37
その他	全体	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	男性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	女性	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
不明	全体	0	0	2	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	10
	男性	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	女性	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	8
計	全体	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141
	男性	83	14	51	51	0	0	130	22	85	4	5	36	20	2	7	90	1	0	4	39	644
	女性	53	10	32	31	3	0	72	14	86	4	5	17	13	3	7	92	10	0	1	44	497

② 月別・症状別にみた負傷の発生件数

月ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-2）、7 月、8 月は「虫さされ」（7 月 29 件、8 月 52 件）が最も多く、特に 8 月については発生した負傷の 4 分の 1 を「虫さされ」が占めている状況であった。その他の月では、5 月、6 月は「打撲」（5 月 39 件、6 月 27 件）、4 月は「ねんざ」（31 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-2. 月別・症状別負傷発生件数

(件)

月		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
春・夏	4月	12	4	6	5	0	0	20	7	31	2	4	3	5	1	1	28	2	0	0	15	146
	5月	15	2	12	10	0	0	39	3	28	1	1	6	8	0	2	26	2	0	0	11	166
	6月	20	6	9	17	0	0	27	4	19	0	0	7	2	1	3	18	0	0	0	10	143
	7月	18	3	11	16	1	0	17	6	6	0	1	7	9	0	1	29	0	0	3	15	143
	8月	21	3	18	10	0	0	28	4	23	0	2	12	2	0	2	52	6	0	1	10	194
	9月	20	2	3	11	0	0	29	4	15	1	1	4	4	0	2	15	0	0	0	6	117
秋・冬	10月	7	1	3	5	2	0	5	0	14	1	0	2	0	0	2	3	1	0	0	2	48
	11月	5	0	3	0	0	0	8	1	9	1	0	5	1	1	0	4	0	0	0	3	41
	12月	6	0	3	2	0	0	6	2	4	1	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	29
	1月	1	1	5	3	0	0	8	1	8	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	4	35
	2月	4	2	2	2	0	0	11	2	8	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	3	38
	3月	7	0	8	1	0	0	4	2	5	0	0	1	0	2	0	6	0	0	0	4	40
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計		136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数

時間ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-3）、発生件数の多かった 10 時や 11 時、15 時や 16 時では「打撲」「ねんざ」「きり傷」「虫さされ」による負傷が多くなっている。そこで、症状ごとに各生活時間帯の発生件数をみたところ、「虫さされ」では、午前の活動の時間帯（9～11 時）が 31 件であったのに対し、午後の活動の時間帯（13～16 時）は 83 件と 2 倍以上多くなっていた。

表 2-3-3. 時間別・症状別負傷発生件数

(件)

時間		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
起床・朝食等	6時	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	1	1	1	0	1	6	0	0	0	3	22
	7時	1	1	2	0	0	0	2	0	2	0	0	1	2	0	0	6	0	0	0	1	18
	8時	1	0	4	1	0	0	3	2	6	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	5	28
活動(午前)	9時	5	2	4	1	1	0	4	1	6	0	0	2	1	0	1	2	0	0	2	3	35
	10時	21	1	7	8	0	0	21	7	13	0	0	1	4	0	2	13	0	0	0	8	106
	11時	21	2	13	16	0	0	28	5	26	1	0	7	2	0	2	16	1	0	0	9	149
昼食	12時	12	1	8	8	1	0	12	2	5	0	1	5	1	0	0	14	4	0	0	7	81
活動(午後)	13時	5	1	8	6	0	0	5	0	19	1	0	6	1	0	0	19	2	0	0	1	74
	14時	7	1	3	8	0	0	13	4	11	1	1	8	2	2	3	23	1	0	0	6	94
	15時	18	4	6	2	0	0	25	4	32	1	2	4	4	2	0	27	0	0	2	7	140
	16時	13	8	8	6	0	0	26	3	16	1	2	2	1	0	3	14	1	0	1	8	113
夕食・入浴等	17時	5	1	6	6	0	0	7	3	6	0	1	3	3	0	0	11	1	0	0	10	63
	18時	7	0	1	5	0	0	9	0	1	2	0	1	0	0	0	4	0	0	0	5	35
活動(夜)	19時	6	0	2	5	0	0	11	5	10	1	0	2	3	0	2	9	0	0	0	3	59
	20時	5	0	7	5	0	0	17	0	8	0	1	5	2	0	0	6	0	0	0	5	61
	21時	5	1	2	3	1	0	7	0	9	0	0	2	1	1	0	4	0	0	0	2	38
就寝	22～5時	4	1	1	1	0	0	5	0	1	0	1	3	2	0	0	5	1	0	0	0	25
計		136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数

活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-4）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「打撲」（53 件）、「ねんざ」（40 件）、「虫さされ」（25 件）、野外炊事では「やけど」（52 件）、「きり傷」（24 件）、「虫さされ」（18 件）、自由時間では「打撲」（25 件）、「きり傷」（17 件）、「すり傷」（11 件）による負傷が多くなっている。

次に、場所ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-5）、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「ねんざ」（58 件）、「虫さされ」（49 件）、「打撲」（33 件）、グラウンド・広場・コート等では「虫さされ」（34 件）、「きり傷」（24 件）、「打撲」（24 件）、体育館・プレイホール・講堂では「打撲」（48 件）、「ねんざ」（35 件）、「突き指」（19 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-4. 活動内容別・症状別負傷発生件数

(件)

活動	さ り 傷	さ し 傷	す り 傷	や け ど	日 焼 け	凍 傷	打 撲	突 き 指	ね ん ざ	靱 帯 損 傷 ・ 断 裂	脱 臼	骨 折	鼻 血	歯 の 破 折	眼 の け が	虫 さ さ れ	か ぶ れ	気 道 閉 塞 ・ 誤 嚥	溺 水	そ の 他	計
登山・ハイキング	4	0	4	0	1	0	13	0	27	1	0	4	1	0	0	27	2	0	0	7	91
オリエンテーリング・ウォークラリー	9	2	8	0	0	0	9	1	25	0	0	0	2	0	1	11	2	0	0	6	76
陸上活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
クロスカントリー	1	0	5	0	0	0	7	0	4	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	22
サイクリング・マウンテンバイク	3	0	2	0	0	0	10	0	1	0	0	5	2	0	0	6	0	0	0	1	30
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
クライミング・ボルダリング	19	4	15	3	0	0	53	20	40	4	6	15	3	1	3	25	1	0	0	18	230
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	10
水辺活動	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	3	14
海水浴・磯遊び・釣り	6	1	2	0	0	0	3	2	4	1	0	1	0	0	0	8	0	0	0	0	28
沢登り・川遊び	2	0	2	0	0	0	7	0	9	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	26
スキー・スノーボード	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クロスカントリースキー	4	0	5	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	24	2	1	52	0	0	6	1	8	0	0	2	4	0	0	18	1	0	1	2	122
野外炊事	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
キャンプ(テント設営等)	0	1	0	7	0	0	3	0	4	0	0	1	0	0	2	7	0	0	0	1	26
キャンブファイヤー・キャンドルセレモニー	10	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	4	24
創作活動(クラブ等)	2	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	9
自然観察	8	2	5	3	0	0	17	4	12	0	1	3	3	1	0	14	1	0	0	9	83
研修・学習活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
奉仕活動	17	5	11	1	2	0	25	3	6	0	2	6	6	1	2	8	0	0	1	11	107
自由時間	1	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	0	11	0	0	0	1	21
つどい(朝・夕)	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6
清掃	1	0	1	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	17
食事	2	1	2	0	0	0	5	1	4	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	20
入浴	2	0	1	1	0	0	10	0	0	0	1	3	4	1	1	10	0	0	0	4	38
就寝時間(起床時も含む)	5	2	6	0	0	0	8	2	20	0	0	6	0	0	2	7	0	0	0	1	59
移動中	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
入所前	9	0	7	4	0	0	6	0	2	1	0	3	1	1	1	8	0	0	0	2	45
その他	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
不明	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141
計																					

表 2-3-5. 場所別・症状別負傷発生件数

(件)

場所	すり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
生活エリア	11	1	3	2	2	0	30	4	3	0	2	7	11	2	1	15	0	0	0	1	11
宿泊室	8	3	10	0	0	0	11	2	19	0	0	4	1	0	0	5	0	0	0	0	2
通路・階段	1	0	1	5	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
食堂	2	1	2	0	0	0	4	1	2	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2
浴室	11	3	5	5	0	0	15	1	5	1	1	1	2	1	0	10	0	0	0	0	10
研修室・オリエンテーション室	15	1	7	5	0	0	48	19	35	4	2	8	5	0	4	15	1	0	0	14	183
体育館・プレイホール・講堂	0	1	0	0	0	0	6	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	13
武道場	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クライミングウォール	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
工作室・調理室等	26	3	1	48	0	0	6	1	7	0	0	1	4	0	0	18	1	0	1	2	119
野外炊飯場	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	9
テントサイト	24	6	23	3	0	0	24	3	17	0	5	16	5	2	6	34	1	0	0	12	181
グラウンド・広場・コート等	23	3	15	1	1	0	33	2	58	1	0	6	2	0	0	49	8	0	0	15	217
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	1	8
ロープスコース	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	8
海洋施設	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	8
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	3	1	5	1	0	0	10	0	12	0	0	4	2	0	2	7	0	0	0	6	53
その他	7	0	9	6	0	0	8	1	10	2	0	2	0	0	1	15	0	0	3	2	66
計	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

天候ごとに発生した負傷した症状をみると（表 2-3-6）、晴では「虫さされ」（117 件）、曇や雨、雪では「打撲」（曇 55 件、雨 38 件、雪 7 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-6. 天候別・症状別負傷発生件数

(件)

天候	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靱帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
晴	82	19	53	50	1	0	102	16	105	6	7	30	26	5	6	117	11	0	4	55	695
曇	38	3	24	20	2	0	55	13	39	2	3	16	4	0	4	47	0	0	1	15	286
雨	13	2	3	11	0	0	38	7	21	0	0	7	2	0	4	17	0	0	0	12	137
雪	3	0	3	1	0	0	7	0	6	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	23
計	136	24	83	82	3	0	202	36	171	8	10	53	33	5	14	182	11	0	5	83	1141

(4) 負傷した時の状況

① 負傷の多かった活動の事例（上位5つ）

〔スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）〕

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／武道場

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・女
状況	柔道の試合中、相手に投げられ、手を着いたところに相手が倒れこんできて左手首を骨折した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	靱帯損傷・断裂(膝)	程度	重傷	傷病者	大学生等・男
状況	綱引きをしていてバランスを崩して転倒、右ひざを捻った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／グラウンド・広場・コート等

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	大学生等・男
状況	試合中ファーストを守っているとき、強いゴロを捕ろうとして顔に直撃した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)

症状	骨折(足・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	ボールを蹴ろうとした時、相手選手の足と強く接触し負傷。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	キンボールゲーム後にボールを取ろうとした際、足が滑り転倒し、後頭部を床にぶつけた。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／グラウンド・広場・コート等

症状	きり傷(顔)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	サッカー中、友達の肘が口唇に当たり、自分の下の歯で自分の上口唇を切った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	高校生・男
状況	バスケットボールの練習中に他人の足を踏み、捻挫した。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	ドッジボールをしていて、ボールをよけた時にバランスを崩し、後頭部を床に打った。				

〔活動〕 スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）／体育館・プレイホール・講堂

症状	打撲(下腿)	程度	軽微	傷病者	中学生・女
状況	ソフトバレーボールをしていて、ボールを追いかけてスライディングし、床に右足下部の前を強打。				

〔活動〕 スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)／敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽微	傷病者	中学生・女
状況	大縄跳び練習中に、縄が足に当たり、バランスをくずし、足首をひねった。				

〔活動〕 スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)／体育館・プレイホール・講堂

症状	虫さされ(膝)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	体育館で座っていたら左ひざをムカデにかまれてしまった。				

〔活動〕 スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)／体育館・プレイホール・講堂

症状	虫刺され(手・指)	程度	軽微	傷病者	高校生・男
状況	試合中、審判台に座って審判をしていたところ、ズボンに止まっていたハチに気づかず触ってしまい、刺された。				

〔野外炊事〕

〔活動〕 野外炊事／その他

症状	骨折(手・指)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	焼き芋づくりの片付けをしている時に男児と清掃用具を使ってけんかをした。その際に、受傷者の親指に用具があたった。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	やけど(下腿)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	豚汁をよそっていた際にテーブルとイスが離れていたため、お椀に入っていた豚汁を下腿にこぼしてしまった。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	食材を切っていて、包丁で左手親指・人差し指付け根を切る。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	きり傷(手・指)	程度	軽傷	傷病者	大学生等・男
状況	薪割りの際、薪を抑えていた手に誤ってナタが当たり、左手人差し指を切る。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	ねんざ(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	野外炊事後片付け中、炊事場にあった木の切り株につまづき、手をついた際に負傷。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	打撲(足・指)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	かまどを片づけをしていた際に、グレーチングを持ち上げようとしていたところ、手が滑り、グレーチングが左足親指の上に落ちた。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽微	傷病者	高校生・男
状況	野外炊飯をしていて鍋を持ったとき、指が鍋のとつてにふれてやけどをした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	軍手をした手でカレー鍋を持ったところ、軍手が濡れていたため水分が蒸発してやけどした。				

〔活動〕 野外炊事／野外炊飯場

症状	やけど(手首)	程度	軽微	傷病者	大学生等・男
状況	薪を入れている際に、他の人が使っている熱くなったトングがあたりやけどした。				

〔自由時間〕

〔活動〕 自由時間／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(下腿)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	ターザンロープで遊んでいたところ、怖くなってしまい、立って足をついて止めようとした。				

〔活動〕 自由時間／通路・階段

症状	きり傷(手・指)	程度	重傷	傷病者	大学生等・男
状況	宿泊棟付近の通路で遊んでいた際に転んでしまい、排水溝の角に手をついて手のひらを切った。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	高校生・女
状況	部屋を出る際に出入り口で振り向いたときに、引き戸の鉄棒に前歯をぶつけたため。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	きり傷(下腿)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	部屋の中で、ベッドからベッドに飛んで遊んでいて誤って落ちベッドの角で下腿をぶつけ、切傷を負った。				

〔活動〕 自由時間／体育館・プレイホール・講堂

症状	きり傷(頭)	程度	軽傷	傷病者	高校生・男
状況	多目的ホール壁際で友人とレスリングをしていて投げられ、壁に後頭部をぶつけ、切れて出血した。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	その他(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	宿泊室のベットにいたアオダイショウをつかみ、外に逃がす際に噛まれた。				

〔活動〕 自由時間／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(肩)	程度	軽微	傷病者	小学生・女
状況	自由時間に広場の滑り台を滑っていて転び、右肩を打撲した。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	高校生・男
状況	男子2名のふざけあいの際中、カッとなった生徒が同級生を強くたたいたような形になり、後頭部を窓ガラスに強打した。				

〔活動〕 自由時間／宿泊室

症状	虫さされ(足・指)	程度	軽微	傷病者	高校生・男
状況	干していたスボンの中にハチがいるのに気付かず、履いてしまった。				

〔登山・ハイキング〕

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	崖を走って下っている時に転倒した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(足首)	程度	重傷	傷病者	その他・女
状況	下山中、足を滑らせた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	登山の下山中に石に足を置いた際に、足が滑ってしまい前に手をつかずに転倒し、石で右眼の上を打ってしまった。				

〔活動〕 登山・ハイキング／その他

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ナイトハイク中、階段で着地に失敗して足を挫いた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	ハイキングの帰り道、側溝のふた(鉄網)で滑り転倒した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(膝)	程度	軽傷	傷病者	中学生・女
状況	下山中に滑って転倒し、膝を捻挫した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	虫さされ(足首)	程度	軽傷	傷病者	大学生等・男
状況	登山後、足首に付いたマダニを発見した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(膝)	程度	軽微	傷病者	中学生・女
状況	もともと痛めていた左膝が登山の疲労で痛み出した。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(顔)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	岩につまづき転倒し、左上まぶたを岩にぶつけた。				

〔活動〕 登山・ハイキング／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(手首)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	苔の付いた岩ですべり、手を付いた時にひねった。				

〔研修・学習活動〕

〔活動〕 研修・学習活動／宿泊室

症状	打撲(前腕)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	就寝前にファイルを集めていて転倒。右腕を下に倒れた。				

〔活動〕 研修・学習活動／海洋施設

症状	骨折(膝)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	走っていて転倒。膝から倒れ込みぐきと音がした。				

〔活動〕 研修・学習活動／研修室・オリエンテーション室

症状	打撲(手・指)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	研修棟への入り口へ走って入ろうとした際、マットの湾曲した部分に足を引っ掛け、転倒した。右手を床に打ち付けた際、右手小指を負傷した。				

〔活動〕 研修・学習活動／研修室・オリエンテーション室

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	室内でゲームをしている時に友達に足がぶつかり、右足首を負傷する。				

〔活動〕 研修・学習活動／宿泊室

症状	骨折(手首)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	宿泊棟内にて荷物に足をとられ転倒し、左手首を強打した。				

[活動] 研修・学習活動／体育館・プレイホール・講堂

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	カプラをしていて、歩いているときにカプラを誤って踏んでしまい、後ろに倒れた。床で後頭部を打った				

[活動] 研修・学習活動／体育館・プレイホール・講堂

症状	ねんざ(手首)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	雑巾がけリレーで転び、右腕を内側にひねった。				

[活動] 研修・学習活動／研修室・オリエンテーション室

症状	打撲(腰)	程度	軽微	傷病者	中学生・男
状況	学習中に慌てて移動し、机の角で腰を強打した。				

[活動] 研修・学習活動／研修室・オリエンテーション室

症状	きり傷(手・指)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	レクリエーション内のゲームで、自分の思うようにいかないことが重なり、壁や扉を叩いていた。何度か扉をたたいているうちにガラスを割ってしまった。				

② その他の活動で重傷だった事例

[活動] アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム／グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(膝)	程度	重傷	傷病者	大学生等・女
状況	エレクトリックフェンスをしていた時、バランスを崩して着地した際、膝を捻ってしまった。				

[活動] サイクリング・マウンテンバイク／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	ブレーキをかけた際に前方に転倒し、左手を地面についた。				

[活動] 移動中／通路・階段

症状	骨折(肘)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	友達を走って追いかけていたところ、タイルで滑ってしまい左ひじを強打。病院を受診した結果、骨折と診断される。				

[活動] 移動中／通路・階段

症状	骨折(前腕)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	夕べのつどい終了後、宿舎に戻ろうとして管理棟からサービス棟に移動中に階段で転倒し、階段の角に左手を強打した。				

[活動] 沢登り・川遊び／屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	沢登りのスタート地点に行く途中で滑って転んだ際に左手をついて手首を痛めた。				

3. 疾病の概況

(1) 疾病の状態

疾病の症状をみると（表 3-1-1）、「発熱」（674 件）が最も多く、次いで「頭痛」（413 件）、「吐き気」（213 件）となっている。

疾病が発症した要因（複数回答）をみると（表 3-1-2）、「疲労（本人）」（1229 件）が最も多く、次いで「気温（環境）」（449 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（201 件）となっており、本人に係る要因（2557 件）が 6 割強、環境に係る要因（778 件）が 2 割弱を占めている状況であった。

疾病の発症時期をみると（表 3-1-3）、「急に」（1112 件）が最も多く、次いで「今朝から」（662 件）、「前日から」（258 件）となっている。

表 3-1-1. 症状別疾病発生件数・割合

症状	件	%
発熱	674	29.0
咳・喉の痛み	89	3.8
くしゃみ・鼻水	7	0.3
喘息	31	1.3
過呼吸	34	1.5
頭痛	413	17.7
めまい	54	2.3
吐き気	213	9.1
嘔吐	193	8.3
腹痛	199	8.5
下痢	25	1.1
生理痛	46	2.0
歯痛	3	0.1
脱水	32	1.4
けいれん	10	0.4
倦怠感(だるさ)	135	5.8
発疹	26	1.1
低体温	5	0.2
その他	139	6.0
計	2328	100.0

表 3-1-3. 発症時期別疾病発生件数・割合

時期	件	%
数日前から	108	4.6
前日から	258	11.1
今朝から	662	28.4
急に	1112	47.8
その他	127	5.5
不明	61	2.6
計	2,328	100.0

表 3-1-2. 要因別疾病発生件数・割合

(複数回答)

要因	件	%	%
本人			62.3
失敗	4	0.2	
不注意	35	1.5	
不慣れ	168	7.2	
不適切な行動	22	0.9	
寝不足	363	15.6	
疲労	1229	52.8	
不安・心配・緊張	402	17.3	
体力不足	179	7.7	
人間関係(けんか、ふざけ等)	8	0.3	
既往症	116	5	
アレルギー	31	1.3	
指導・引率者			4.4
指導不足	36	1.5	
注意不足	97	4.2	
経験不足	16	0.7	
人数不足	5	0.2	
連携不足	6	0.3	
準備不足	19	0.8	
装備			1.5
不適切な服装	30	1.3	
装備不備	18	0.8	
装備不良(破損・劣化)	0	0	
施設・設備の欠陥・不良	14	0.6	
環境			18.9
荒天(強風、雷、吹雪等)	27	1.2	
気温	449	19.3	
日差し	162	7	
高度(標高)	25	1.1	
雪	4	0.2	
落石・落木	0	0	
不安定さ・滑りやすさ	1	0	
虫・動物	2	0.1	
植物	3	0.1	
病原体(ウィルス等)	105	4.5	
その他	284	12.2	6.9
不明	246	10.6	6.0
回答者数	2,328		↑

※上記の数値は回答数(N=4,106)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

症状ごとに疾病の発症要因（複数回答）をみると（表 3-2-1）、発熱では、「疲労（本人）」（368 件）、「気温（環境）」（119 件）、「病原体（ウィルス）（環境）」（92 件）が多くなっており、頭痛では、「疲労（本人）」（229 件）、「気温（環境）」（118 件）、「寝不足（本人）」（86 件）、吐き気では「疲労（本人）」（126 件）、「寝不足（本人）」（47 件）、「不安・心配・緊張（本人）」（46 件）による発症が多くなっている。

表 3-2-1. 要因別・症状別疾病発生件数

（複数回答：件）

要因		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他
本人	失敗	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	不注意	11	2	0	2	0	5	0	1	5	4	2	0	0	0	1	0	1	0	1
	不慣れ	33	8	0	5	4	18	5	27	18	16	1	1	1	6	2	8	1	0	14
	不適切な行動	1	0	0	0	1	2	0	3	7	3	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	寝不足	66	11	2	3	5	86	12	47	36	34	3	5	0	3	0	29	1	1	19
	疲労	368	55	3	16	12	229	27	126	102	98	10	13	0	22	7	84	4	2	51
	不安・心配・緊張	67	8	0	12	12	76	13	46	43	56	5	5	0	4	2	18	2	0	33
	体力不足	66	4	0	1	3	25	5	23	10	8	1	2	0	4	1	14	0	1	11
	人間関係	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1
	既往症	11	4	0	11	4	28	4	4	0	6	3	14	1	1	1	4	2	0	18
	アレルギー	2	3	0	7	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	4
指導・引率者	指導不足	3	0	0	1	2	4	1	4	4	2	0	0	0	7	1	2	0	0	5
	注意不足	26	1	0	1	2	15	1	11	13	5	0	3	0	1	3	5	0	1	9
	経験不足	2	0	0	1	2	1	0	3	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	人数不足	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	連携不足	1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	準備不足	5	1	0	0	0	2	0	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
装備	不適切な服装	6	1	0	0	0	5	0	5	4	3	1	1	0	0	0	2	0	0	2
	装備不備	4	0	0	2	0	1	1	3	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3
	装備不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設・設備の欠陥・不良	2	0	0	1	0	3	0	3	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
環境	荒天	6	3	0	1	0	10	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1
	気温	119	12	1	3	9	118	8	44	38	24	2	6	0	13	2	26	1	1	22
	日差し	30	3	0	3	1	46	5	16	12	6	0	1	0	13	2	10	1	0	13
	高度（標高）	5	0	0	2	3	8	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	雪	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	不安定さ・滑りやすさ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虫・動物	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	植物	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	病原体（ウィルス等）	92	2	0	0	0	3	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他		98	8	2	1	4	23	7	22	41	28	3	7	1	2	2	8	8	0	19
不明		65	8	1	1	2	47	4	19	16	33	5	12	0	3	0	21	3	0	6
回答者数(N=2328)		674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139

症状ごとに疾病の発症時期をみると（表 3-2-2）、発熱、頭痛、吐き気では、「急に」（発熱 285 件、頭痛 206 件、吐き気 105 件）が最も多く、次いで「今朝から」（発熱 189 件、頭痛 127 件、吐き気 65 件）、「前日から」（発熱 102 件、頭痛 41 件、吐き気 23 件）となっている。

表 3-2-2. 発症時期別・症状別疾病発生件数

(件)

時期	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
数日前から	38	12	1	3	1	12	3	6	3	6	4	9	0	1	0	2	2	0	5	108
前日から	102	20	2	3	2	41	1	23	6	18	3	7	0	1	0	12	3	1	13	258
今朝から	189	25	2	4	2	127	8	65	61	66	7	18	1	4	0	50	3	1	29	662
急に	285	30	1	20	25	206	32	105	110	94	9	11	1	25	8	58	17	3	72	1112
その他	35	1	0	0	3	23	8	9	10	8	1	0	1	1	0	11	1	0	15	127
不明	25	1	1	1	1	4	2	5	3	7	1	1	0	0	2	2	0	0	5	61
計	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

症状ごとに処置・静養後の対応をみると（表 3-2-3）、発熱では「活動継続」（311 件）より「帰宅」（352 件）のほうが多くなっており、発熱の症状が出た者の半数以上が帰宅している状況であった。また、喘息や嘔吐についても発症した者の 3 割半が帰宅している状況であった。

表 3-2-3. 処置・静養後の対応別・症状別疾病発生件数

(件)

処置・静養後	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
活動継続	311	68	7	20	26	323	45	168	128	163	20	36	3	29	7	118	20	4	100	1596
帰宅	352	20	0	11	7	85	8	43	64	31	4	6	0	3	3	15	5	1	37	695
不明	11	1	0	0	1	5	1	2	1	5	1	4	0	0	0	2	1	0	2	37
計	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数

年齢期ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-1）、小学生、中学生、高校生ともに「発熱」（小学生 281 件、中学生 158 件、高校生 100 件）が最も多く、次いで、「頭痛」（小学生 161 件、中学生 102 件、高校生 71 件）が多くなっている。

男女で疾病の症状を比較すると、男性は「嘔吐」（113 件）、女性は「過呼吸」（29 件）、「腹痛」（127 件）「めまい」（33 件）、「頭痛」（172 件）、「喘息」（18 件）の症状が多くなっている。そこで、年齢期ごとに男女の疾病の発症件数を比較したところ、幼児と小学生を除き、いずれの年齢期でも女性のほうが多くなっており、その差は高校生で顕著にみられた。

表 3-3-1. 年齢期別・性別・症状別疾病発生件数 (件)

年齢期	性別	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
幼児	全体	32	0	1	0	0	1	1	3	15	4	0	0	0	0	0	5	0	0	3	65
	男性	21	0	0	0	0	1	1	1	10	2	0	0	0	0	0	3	0	0	2	41
	女性	11	0	1	0	0	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	24
小学生	全体	281	30	0	10	5	161	15	98	115	93	13	1	0	9	3	63	13	4	47	961
	男性	137	21	0	6	1	91	9	57	70	37	7	0	0	7	1	30	6	2	28	510
	女性	144	9	0	4	4	70	6	41	45	56	6	1	0	2	2	33	7	2	19	451
中学生	全体	158	17	0	7	6	102	15	53	29	43	5	9	0	10	4	30	5	0	34	527
	男性	71	8	0	2	1	32	5	27	16	16	5	0	0	3	3	18	1	0	10	218
	女性	87	9	0	5	5	70	10	26	13	27	0	9	0	7	1	12	4	0	24	309
高校生	全体	100	18	3	7	9	71	8	28	10	42	3	22	0	6	2	17	3	0	22	371
	男性	50	4	1	3	0	23	4	7	4	10	1	0	0	5	1	5	1	0	8	127
	女性	50	14	2	4	9	48	4	21	6	32	2	22	0	1	1	12	2	0	14	244
大学生等	全体	54	11	2	3	6	45	4	10	9	12	4	11	2	0	0	14	1	0	16	204
	男性	27	5	2	0	2	14	1	4	4	3	2	0	1	0	0	6	0	0	5	76
	女性	27	6	0	3	4	31	3	6	5	9	2	11	1	0	0	8	1	0	11	128
社会人	全体	38	12	1	4	7	28	11	20	12	5	0	3	1	7	1	6	4	1	15	176
	男性	23	6	1	2	1	7	1	8	8	4	0	0	0	4	0	1	2	1	10	79
	女性	15	6	0	2	6	21	10	12	4	1	0	3	1	3	1	5	2	0	5	97
その他	全体	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
	男性	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	女性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
不明	全体	9	0	0	0	1	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	男性	7	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	女性	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
計	全体	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328
	男性	337	44	4	13	5	172	21	104	113	72	15	0	1	19	5	63	10	3	63	1064
	女性	337	45	3	18	29	241	33	109	80	127	10	46	2	13	5	72	16	2	76	1264

② 月別・症状別にみた疾病の発生件数

月ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-2）、発生件数の多かった 7 月は「発熱」（114 件）、「頭痛」（89 件）、「吐き気」（45 件）、8 月は「頭痛」（90 件）、「発熱」（79 件）、「吐き気」（43 件）の症状が多くなっている。「発熱」の発生件数は、8 月を除いていずれの月でも多くなっているが、春・夏の時期は 7 月（114 件）、秋・冬の時期は 1 月（138 件）が最も多くなっている。

表 3-3-2. 月別・症状別疾病発生件数

(件)

月		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
春・夏	4月	72	20	4	11	13	59	10	36	13	35	2	12	0	7	0	13	0	0	22	329
	5月	65	9	0	1	2	56	8	16	16	23	5	12	0	3	2	18	2	0	23	261
	6月	60	6	1	3	0	39	6	22	46	22	1	0	0	5	2	16	4	1	10	244
	7月	114	13	0	5	4	89	5	45	43	24	6	2	0	15	0	25	2	2	32	426
	8月	79	10	0	3	7	90	10	43	27	36	3	12	1	2	5	29	7	1	21	386
	9月	43	5	0	5	5	23	6	8	14	15	4	3	1	0	0	7	2	0	8	149
秋・冬	10月	18	3	0	0	0	16	1	6	7	7	2	0	0	0	0	6	3	0	4	73
	11月	21	3	2	1	0	7	0	8	2	7	0	2	0	0	0	7	1	0	4	65
	12月	19	4	0	1	0	11	2	6	5	7	0	1	0	0	0	6	0	0	1	63
	1月	138	7	0	0	1	8	2	11	6	9	1	0	0	0	0	3	4	1	6	197
	2月	23	2	0	0	0	5	2	3	8	6	1	1	0	0	1	1	0	0	2	55
	3月	22	7	0	1	2	10	2	9	6	8	0	1	1	0	0	4	1	0	6	80
計		674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数

時間ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-3）、発生件数の多かった 7 時～10 時では「発熱」「頭痛」「吐き気」の症状が多くなっている。なお、「発熱」については、一部の時間（9 時、10 時、14 時）を除き、いずれの時間でも発生件数が多くなっている。そこで、生活時間帯ごとに「発熱」の発生件数をみたところ、他の時間帯に比べ、起床・朝食等の時間帯（6～8 時）が 149 件と最も多くなっていた。

表 3-3-3. 時間別・症状別疾病発生件数

(件)

時間		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
起床・朝食等	6時	39	1	0	1	0	13	0	5	3	6	0	0	0	0	0	7	1	1	4	81
	7時	50	7	0	1	1	23	2	26	25	18	5	3	0	2	0	7	2	0	4	176
	8時	60	8	0	2	2	33	4	30	26	17	0	0	0	0	1	15	2	2	6	208
活動（午前）	9時	30	9	1	5	2	33	5	15	11	19	2	8	1	2	1	18	0	0	10	172
	10時	34	14	2	0	1	40	6	17	14	14	2	6	0	7	1	16	0	0	16	190
	11時	41	6	0	2	4	38	7	21	11	13	1	2	1	3	0	3	0	0	13	166
昼食	12時	41	5	0	1	3	20	3	15	12	10	1	7	0	9	0	8	1	1	19	156
活動（午後）	13時	47	4	1	1	1	33	4	18	8	25	1	3	0	1	0	14	2	0	9	172
	14時	26	7	0	3	2	29	2	10	5	12	3	3	0	5	0	10	2	0	6	125
	15時	35	3	0	3	3	32	9	8	11	9	2	3	0	1	3	5	3	0	5	135
	16時	33	5	0	1	4	29	2	4	8	9	0	0	1	0	2	8	3	1	10	120
夕食・入浴等	17時	52	4	0	1	2	30	5	10	10	5	3	2	0	1	0	8	0	0	8	141
	18時	35	2	2	1	2	19	1	11	16	15	1	0	0	0	1	5	0	0	5	116
活動（夜）	19時	34	4	1	2	1	14	2	5	7	14	2	6	0	0	1	7	3	0	5	108
	20時	33	4	0	1	4	8	1	3	6	8	1	1	0	1	0	2	4	0	6	83
	21時	34	1	0	1	1	9	1	5	6	1	0	2	0	0	0	1	1	0	4	67
就寝	22～5時	50	5	0	5	1	9	0	10	14	4	1	0	0	0	0	1	2	0	9	111
不明		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計		674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた疾病の発生件数

活動内容ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-4）、研修・学習活動や自由時間では「発熱」（研修・学習活動 123 件、自由時間 107 件）、「頭痛」（研修・学習活動 115 件、自由時間 53 件）、「腹痛」（研修・学習活動 43 件、自由時間 26 件）、就寝時間（起床時間も含む）では「発熱」（52 件）、「頭痛」（33 件）、「嘔吐」（25 件）の症状が多くなっている。

次に、場所ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-5）、宿泊室では「発熱」（246 件）、「頭痛」（87 件）、「嘔吐」（48 件）、研修室・オリエンテーション室や体育館・プレイホール・講堂では「発熱」（研修室等 91 件、体育館等 91 件）、「頭痛」（研修室等 74 件、体育館等 69 件）、「腹痛」（研修室等 38 件、体育館等 36 件）の症状が多くなっている。

表 3-3-4. 活動内容別症状別疾病発生病数

(件)

活動場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
登山・ハイキング	22	0	0	0	5	18	0	7	4	6	1	2	0	1	1	2	2	0	3	74
陸上活動	18	2	0	3	2	32	5	18	8	9	1	1	0	9	0	10	0	0	6	124
クロスカントリー	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	8
サイクリング・マウンテンバイク	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	7	0	1	1	0	9	3	4	0	5	0	0	0	1	0	6	1	0	0	38
クライミング・ボルダリング	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	48	8	0	2	4	23	8	26	10	21	3	2	2	4	3	15	0	1	22	202
水	7	2	0	0	1	14	0	6	5	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	40
水辺活動	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	8
海水浴・磯遊び・釣り	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	7
沢登り・川遊び																				
スキー・スノーボード	24	1	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	5	37
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	9
野外炊事	30	2	0	3	0	23	2	6	12	12	2	1	0	1	0	7	2	0	9	112
キャンプ(テント設営等)	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	6
キャンプファイヤー・キャンデルセレモニー	15	0	0	1	2	8	0	0	3	4	0	0	0	0	1	1	3	0	2	40
創作活動(クラフト等)	16	1	0	0	0	8	1	3	3	7	1	0	0	0	0	3	0	0	1	44
自然観察	4	0	0	0	0	2	0	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16
研修・学習活動	123	36	1	10	9	115	14	32	16	43	7	25	1	5	0	31	3	1	27	499
奉仕活動	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
自由時間	107	10	2	2	3	53	3	15	18	26	1	3	0	0	1	16	3	0	13	276
つどい(朝・夕)	9	2	0	0	0	13	3	11	13	5	3	0	0	1	0	4	0	0	3	67
清掃	1	2	0	0	1	6	1	6	2	2	1	2	0	0	1	3	0	0	2	30
食事	31	6	1	1	1	16	1	32	44	18	0	2	0	0	1	12	1	1	6	174
入浴	1	0	0	0	1	0	0	2	4	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	13
就寝時間(起床時も含む)	138	9	1	6	0	33	3	20	25	21	5	1	0	0	0	14	4	1	9	290
移動中	18	2	0	0	3	12	2	5	13	3	0	0	0	1	1	1	0	0	6	67
入所前	10	0	0	0	0	3	0	4	3	4	0	1	0	0	0	2	0	0	7	34
その他	22	4	1	2	1	16	7	11	5	7	0	3	0	0	1	3	0	0	9	92
不明	5	1	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12
計	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

表 3-3-5. 場所別・症状別疾病発生件数・割合

(件)

場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
生活エリア	246	22	2	9	1	87	7	38	48	44	7	7	0	0	2	33	6	1	28	588
宿泊室	4	0	0	0	3	7	0	5	9	5	0	0	0	3	0	2	0	0	1	39
通路・階段	30	5	0	1	1	15	1	31	42	14	0	2	0	0	1	10	1	1	5	160
食堂	1	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	11
浴室	91	24	2	7	4	74	12	22	18	38	5	15	1	3	0	26	4	0	21	367
研修室・オリエンテーション室	91	16	1	5	10	69	12	25	10	36	3	12	0	2	2	21	1	1	20	337
体育館・プレイホール・講堂	8	0	0	1	1	5	1	3	1	2	1	0	1	0	1	3	0	0	1	29
武道場	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
クライミングウォール	3	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	10
工作室・調理室等	23	3	0	3	0	18	2	7	10	13	2	1	0	1	0	6	2	0	9	100
野外炊飯場	4	0	0	0	0	4	0	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1	0	2	17
テントサイト	39	9	1	3	3	46	8	29	20	15	4	3	1	8	0	10	2	0	15	216
グラウンド・広場・コート等	39	2	0	2	9	41	5	23	9	9	2	2	0	11	0	7	2	0	12	175
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
ロープスコース	5	5	0	0	1	9	0	8	4	2	0	0	0	0	0	3	0	1	3	41
海洋施設	56	2	0	0	0	26	2	10	8	9	1	1	0	2	2	8	1	1	12	141
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	29	0	1	0	0	10	3	6	9	4	0	2	0	1	1	2	2	0	9	79
その他	3	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	11
不明	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328
計																				

⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

天候ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-6）、晴、曇、雨のいずれも「発熱」（晴 394 件、曇 147 件、雨 85 件）、「頭痛」（晴 276 件、曇 73 件、雨 58 件）、「吐き気」（晴 146 件、曇 37 件、雨 22 件）の症状が多くなっている。

表 3-3-6. 天候別症状別疾病発生件数

(件)

天候	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
晴	394	56	5	17	23	276	34	146	121	123	13	27	2	30	8	96	14	3	100	1488
曇	147	14	1	7	7	73	12	37	43	37	8	8	1	2	2	23	7	2	20	451
雨	85	14	0	7	4	58	8	22	27	33	3	10	0	0	0	14	4	0	17	306
雪	47	5	1	0	0	6	0	8	2	5	1	1	0	0	0	2	1	0	2	81
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	674	89	7	31	34	413	54	213	193	199	25	46	3	32	10	135	26	5	139	2328

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策

(1) 負傷の特徴

- 負傷した時の状況をみると（p20～p25）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ドッジボールでバランスを崩して転倒し、床で頭部を打撲」「長縄で着地に失敗して足首をねんざ」、野外炊事では「熱した鍋を持って手をやけど」「刃物を使っていて指を切った」、自由時間では「友達とふざけていて壁に頭をぶつけて出血」「滑り台で遊んでいる時に転んで肩を打撲」といった状況で負傷している。
- 負傷の9割強は軽微又は軽傷な負傷で済んでいるが、中には「綱引きでバランスを崩し、右膝の靱帯損傷・断裂」（スポーツ活動）、「ターザンロープで怖くなって足で止めようとしたら下腿を骨折」（自由時間）、「ブレーキをかけた際に前方に転倒し、手首を骨折」（サイクリング・マウンテンバイク）、「沢で滑って転び、手首を骨折」（沢登り）など1ヶ月以上の治療を要する重傷なケースも起きている。

(2) 今後の安全対策

- 負傷の要因の6割弱を本人の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めていることから、指導者（利用団体の引率者、施設職員等）は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかなど）を徹底し、利用者の安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 負傷の要因として指導者等の注意不足も多く挙げられていることから、指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険（リスク）の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。
- 施設は、事前打ち合わせの際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策を具体的に分かりやすく説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や指導を行えるよう支援する。

2. 疾病の特徴と安全対策

(1) 疾病の特徴

- 発症した症状をみると、発熱、頭痛、吐き気、腹痛、嘔吐が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 発症した時期をみると、半数近くが急に体調を崩しているが、3割弱は朝から、1割強は前日からと答えており、疾病を申し出た者の4割弱は事前に体調不良を感じている。
- 発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約3割は帰宅している。

(2) 今後の安全対策

- 施設での生活は、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になりやすく、その上、普段の生活より体を動かしている時間が長いため、思った以上に疲れがたまりやすい環境にある。そのため、体調を崩し、発熱や頭痛、吐き気といった症状が出てしまうと、病状によっては休養しても活動を続けることが難しくなり、帰宅しなければならないことになる。指導者は、施設での生活は体調を崩しやすい環境にあることを理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにするとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子が見られる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

傷病記録

別紙1（様式3）

1. 傷病者

1-1. 傷病者の情報をお書きください。

団体名：_____ 氏名：_____ 性別：1. 男 2. 女
年齢：_____ 歳（1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生等 6. 社会人 7. その他）

1-2. けがが発生した又は病気の申し出のあった日時、環境、活動場所、活動内容、対応等をお書きください。

日時：20____年____月____日 ____時頃（24時） 利用者数：_____名（うち指導者____名）

日程：____日目／全____日中 天候：1. 晴 2. 曇 3. 雨 4. 雪 環境：1. 屋内 2. 屋外

活動場所：_____ 活動内容：_____

病院の受診：1. 無 2. 有（日帰り） 3. 有（入院） 処置・静養後：1. 活動継続 2. 帰宅

以下、病気の場合は「2.」、けがの場合は「3.」を記入し、最後に「4. 傷病の要因」についてお答えください。

2. 病気

2-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「発症時期」をお答えください。（○はそれぞれ1つ）

【症状】	1. 発熱 2. 咳・喉の痛み 3. くしゃみ・鼻水 4. 喘息 5. 過呼吸 6. 頭痛 7. めまい 8. 吐き気 9. 嘔吐 10. 腹痛 11. 下痢 12. 生理痛 13. 歯痛 14. 脱水 15. けいれん 16. 倦怠感（だるさ） 17. 発疹 18. 低体温 19. その他（ ）
【時期】	1. 数日前から 2. 前日から 3. 今朝から 4. 急に 5. その他（ ）

3. けが

3-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「部位」と「程度」をお答えください。（○はそれぞれ1つ）

【症状】	1. きり傷 2. さし傷 3. すり傷 4. やけど 5. 日焼け 6. 凍傷 7. 打撲 8. 突き指 9. ねんざ 10. 靱帯損傷・断裂 11. 脱臼 12. 骨折 13. 鼻血 14. 歯の破折 15. 眼のけが 16. 虫刺され（→ a. アブ・ブヨ b. ハチ c. ダニ d. 毛虫 e. ムカデ f. クラゲ g. その他（ ）） 17. かぶれ 18. 気道閉塞・誤嚥 19. 溺水 20. その他（ ）
【部位】	1. 頭 2. 顔 3. 眼 4. 首 5. 肩 6. 上腕 7. 肘 8. 前腕 9. 手首 10. 手・指 11. 胸 12. 腹 13. 背中 14. 腰 15. 尻 16. 大腿 17. 膝 18. 下腿 19. 足首 20. 足・指 21. 全身
【程度】	1. 軽微（その場で手当てでできる軽いけが） 2. 軽傷（医師による1か月未満の治療を要するけが） 3. 重傷（医師による1か月以上の治療を要するけが） 4. 致命傷（死亡・後遺症が残る重篤なけが）

3-2. けがをした時の状況（何をしていた、どのようにけがをしたのか）を具体的にお書きください。

4. 傷病の要因

4-1. 傷病が発生した要因と思われる事柄を以下から選んでください。（○はいくつでも）

【本人】	1. 失敗 2. 不注意 3. 不慣れ 4. 不適切な行動 5. 寝不足 6. 疲労 7. 不安・心配・緊張 8. 体力不足 9. 人間関係（けんか、ふざけ等） 10. 既往症 11. アレルギー
【指導・引率者】	12. 指導不足 13. 注意不足 14. 経験不足 15. 人数不足 16. 連携不足 17. 準備不足
【装備等】	18. 不適切な服装 19. 装備不備 20. 装備不良（破損・劣化） 21. 施設・設備の欠陥・不良
【環境】	22. 荒天（強風、雷、吹雪等） 23. 気温 24. 日差し 25. 高度（標高） 26. 水深 27. 雪 28. 落石・落木 29. 不安定さ・滑りやすさ 30. 虫・動物 31. 植物 32. 病原体（ウィルス等）
【その他】	33. その他（1.～32.以外の要因）（ ）

施設記入欄

受理者：_____ ※受理者は記入漏れがないか受取時に確認してください。

【事業種別】 1. 研修支援 2. 教育事業 【No】 _____（年度の通し番号）

安全

は
楽しい活動の第一歩
～事故^{ゼロ}を目指して～

楽しい活動は「安全」という土台があってはじめて成り立ちます。
安全に楽しく活動するためには、どのような活動でこういった事故やけがが起きやすいのかを理解し、そのための対策をあらかじめ考え、準備しておく必要があります。

けがをしやすい活動 ワースト3(春～夏)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)



2位 野外炊事 (110件)

《けがの種類》
やけど……40.0%
きり傷……20.0%
虫刺され……13.6%

《けがをした状況》

- 鍋のふたの取っ手を素手でつかんでしまい、やけど。
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、人差し指を切った。



1位 スポーツ活動 (151件)

《けがの種類》

打撲……22.5%
ねんざ……18.5%
虫刺され……14.6%

《けがをした状況》

- ボールをよけた時に人とぶつかり、バランスを崩して転倒、後頭部を強打。
- 走っている時に足首をひねり、ねんざ。

3位 登山・ハイキング (80件)

《けがの種類》

虫刺され……32.5%
ねんざ……22.5%
打撲……12.5%

《けがをした状況》

- 下山後、足首についたマダニを発見。
- 下山中、足場の悪いところで足をひねり、ねんざ。



活動中の事故やけがを予防するためには？(春～夏)

スポーツ活動では

- 運動前にウォーミングアップとストレッチ(特に脚)をしっかりしておく。
- 周りをよく見ながら動くようにする。



野外炊事では

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をする。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方などを実際に見せながら、どうしたら手を切ってしまうのかを分かりやすく説明する。



登山・ハイキングでは

- 帽子、長袖、長ズボン、手袋、足首を覆う靴下の着用など、登山・ハイキングに適した服装をする。
- マダニなどの侵入を防ぐため、シャツの裾はズボンの中に入れるようにする。
- 適宜休憩を取るようにし、足場が悪いところは注意しながら歩くように声をかけるようにする。



Attention!

思わぬ事故や
けがに注意!



- ① 自由時間にベッドで遊んでいて転落(腕の骨折)
- ① ガラス戸に気づかず入ろうとして顔面を強打(歯の破折)
- ① 入浴中にふざけて熱湯をかけてしまい、やけど(上半身・太腿にⅡ度の熱傷)
- ① 地図を見ながら歩いていて側溝にはまり、足を強打(下腿の裂傷)
- ① 階段を飛び降りて着地に失敗し、足をくじく(足首のねんざ)

けがに注意!!

青少年教育施設で起きたけが ワースト3(春~夏)

平成30年度「傷病調査」(上半期)集計結果(速報値)

3位 ねんざ (114件)

《けがをしたところ》

足首……………74.8%
足・指……………9.0%
手首……………7.2%

《けがの要因》

■不注意(本人)
■不慣れな活動(本人)
■不安定さ・滑りやすさ(環境)

ねんざ
12.7%

打撲
16.9%

虫刺され
18.8%

1位 虫刺され (168件)

《けがをしたところ》《けがの要因》

下腿……………21.7% ■虫・動物(環境)
足首……………14.6% ■不適切な服装(装備)
手・指……………13.4% ■不注意(本人)



2位 打撲 (151件)

《けがをしたところ》

頭……………28.4%
顔……………10.8%
手・指、膝、足・指…9.5%

《けがの要因》

■不注意(本人)
■注意不足(指導・引率者)
■失敗、不慣れな活動(本人)

安全で楽しく活動するために

体験活動には、思わぬ事故や大きなけがが発生するリスクがあります。体験活動の指導者は、活動の指導や支援を行うだけでなく、子供たちが安全に活動できる環境づくりにも配慮することが大切です。

安全管理の3つのポイント

01 計画段階では見落としがないようにできるだけ多くの危険を洗い出し、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を講じるようにしましょう。

02 指導者間で想定される危険や安全対策の情報を共有するとともに、事故が起きた時の対応や手順の確認などを行い、子供たちの安全を確保できる体制づくりを行うようにしましょう。

03 子供たちには、安全に関するセーフティークを行うなど、「自分の身の安全は自分で守る」という意識を持たせるようにしましょう。

安全と危険のバランスを考える

「安全を意識し過ぎる」ことにも注意が必要です。

過度に活動を制限したり、禁止したりすると、子供たちの活動に対する満足度が低下するだけでなく、安全に対する自主性や主体性をなくす機会も失われ、活動の教育効果が薄れてしまうことにもなりかねません。

指導者は、想定されるリスクを自分たちの許容範囲に抑えつつ、過剰な安全管理にならないように安全と危険のバランスを考えながら活動することが大切です。

✓ 活動前のチェックリスト

- ☐ 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか?
- ☐ 気象情報(天気、気温、湿度、風など)を確認しましたか?
- ☐ スタッフ間で情報共有(子供の人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など)はできていますか?
- ☐ 子供たちは活動に適した服装(帽子、長袖、長ズボン、軍手など)をしていますか? また、持ち物も確認しましたか?
- ☐ 体の調子が悪い子供や気分がすぐれない子供はいないか、活動前に確認しましたか?
- ☐ セーフティーク(安全指導)を行いましたか?

事故0

事故を 起こさない ために

想定外の事故やけがを起こさないために最も気をつけなければならないのは、『隠れた危険(危険の見落とし)』がないようにすることです。

「ちょっと気になることがある」、「ちょっと不安がある」といった状態で活動することは事故の元になります。そのような時、場合によっては、活動の中止を決断する『やめる勇気』を持つことも大切です。

「国立青少年教育施設における傷病の概況（平成 30 年度調査）」 実施体制

（調査・普及）

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

（データ処理）

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

（分析・執筆）

青 木 康太朗 國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授

「国立青少年教育施設における傷病の概況（平成 30 年度調査）」 報告書

令和 2 年 3 月

編集・発行／お問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

（施設に関すること）教育事業部企画課研修支援・連携係

電話番号 03-6407-7686 FAX 03-6407-7699

E-mail honbu-sien@niye.go.jp

（分析に関すること）青少年教育研究センター

電話番号 03-6407-7741 FAX 03-6407-7619

E-mail kenkyu-soumu@niye.go.jp
